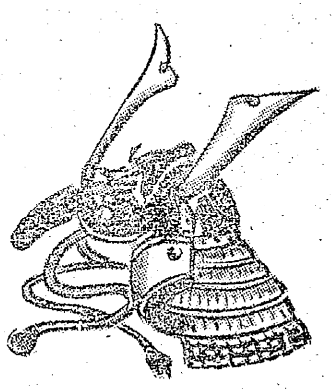
勝つて兜の緒を締めよ



ご苦労さんでした
各支部で拒否者歓迎大會

企闘終結躍進大会は、五日正午の製作支部を皮切りに、六日は三川宮浦、四山と大々的に大会がもたれた。百十三日の永きに亘り、ともに「切られても地獄」「残つても地獄」の合言葉で、拒否者の復職の日を唯一の目標として、闘い抜き、勝ち抜いたもののみが知る感激であつた。うち振る歓迎の旗の波の中を復職者は感激の涙を光らせて入場して來る。迎える者、迎えられる者、この感激が今後の三鉱労組の闘いの基盤となつて、どんな苦しい至難な闘いにもたえて行くことは必至だ。以下は各支部大会の現地ルポである。

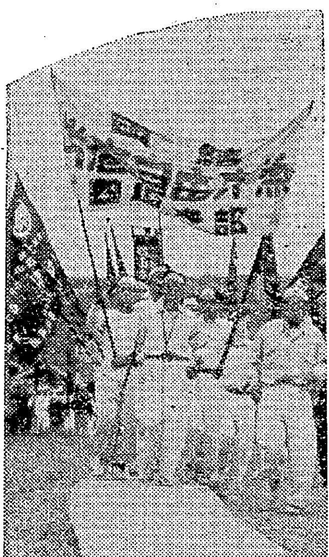
この感激で闘い抜く

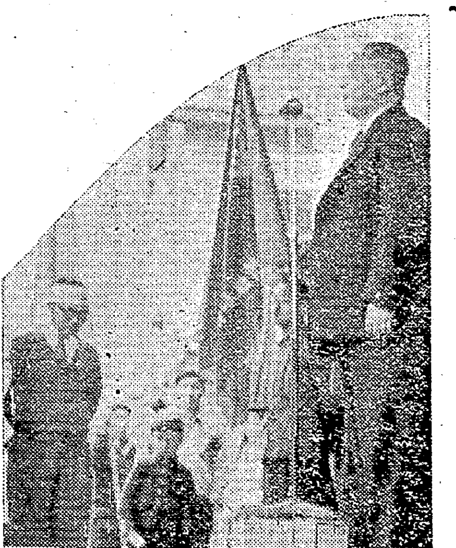
三川支部　六日三川支部の企闘終結躍進大会は、正門の三川坑構内で開催された。会場は赤旗と万国旗で飾られ組合事務所前にはアーチが飾られこの日の組合員、家族の表情はまことに明るいものであつた。午前九時三十分、緑ケ丘炭婦協が一番乗りの堂々たる大デモ行進に続いて、各地域毎にそれぞれ入場約四千名程度が集合した、開会に先だち、執行部が先導となつて復職者の力強い入場があつた。この時は手に手に小旗をうちふり「御苦労さんでした」「お世話になりました」と口々にいたわりながら入場、この時青空高く打ち上げ花火がとどろき、大会の幕は開かれた。酒井支部長より首を守るたゝかいと云う労働者にとつて最も重要な闘いを戦い抜いて来たが、それが実を結び、本日の躍進大会となつたこの闘いに発揮した力を、期闘奮闘により発揮することに今後の前進はあると述べ、五島炭婦協会長は団結の力の偉大さを私達は痛感しました。今後は明るい職場、平和な職場を再建して下さいと喜びの涙を秘めて降壇、復職者代表の蒲池氏は今回の闘争の中より、鍛えられた覚悟を今後の闘争の中に生かして、前衛として働くと覚悟を述べた。特に注目することは、今迄炭婦協の無名の会員として、努力をつゞけてきた。小浜南の久保さんが、ネンネコで子供背負つて登壇し私は最後迄闘つた、この拒否者の名簿を家宝として保存する。労働者の団結権は終戦のあの原爆と、肉親も別れ〳〵になつた外地引揚者等の尊い犠牲の下に与えられたものである。本日のこの喜びを共に喜び得ない悲しい労働者が少数といえどもある今日を思うと、私は労働者のこの団結権を守るために、あらゆる努力をしても守り抜かねばならないと思う。と訴えられ、友誼団体のメッセージや意見発表後ニュース・カー、ブラスバンドを先頭に、市役所前の自労のハンスト、国鉄の大牟田駅を激励デモ、三時半解散した。

職制と闘う

四山支部　九時半より四山グラウンドで各地域分会毎に集結して白シャツ、白ズボンの青行隊を先頭に入場、中村三一氏を議長に開会、松本支部長より民労運等の分裂主義に対して闘うことこそ吾々の将来の生活を助けるものであると挨拶し、復職者代表の中田氏は今回の組合員、炭婦協の偉大なる闘争に感謝するとともに職場における職制の圧迫に対する闘いと労働条件の改善に努力すると述べ、デモに移り、四山県境、市警前より市役所に至つて、市長の今次闘争に対する協力に感謝を述べた。

宮浦支部　十時より、約四千名が宮山グラウンドに、各地域分会毎に集合し開催、今次の闘争は明闘、誉闘のワン・ステップで〃勝つて兜の緒を締めよ〃と大兜の模型をつくり、小型ニュース・カーをくり出し眞導寺―上官通り―築町―銀座通り―映画館通りを廻り、市役所の自労の坐り込み、国鉄を激励し散会した尚当日の意見発表で、朝日ケ丘分会の松崎さんが炭婦協に苦言を呈す、未参加の婦人を温く抱擁して指導せよと述べたことに、つよい感銘を参加者に与えた。





四山支部は荒尾市をデモる

右＝荒尾の坂田市長は、労働都市の市長として本當に頑張つた。今日もデモ隊に「皆様とともに闘う事を誓う」といつた。左＝四山支部のデモ隊は荒尾市を担當して延々とデモ隊を繰り出した、闘い抜くぞ勝ち抜くぞデモ隊は張切る。

市の發展は勞働者の幸福より

何かにつけてガチヤガチヤ云う、大牟田市と違つて、荒尾は大したものだ、市職組や日雇労組などが市廳の上より赤旗を振つて花吹雪、テープをちらしての歓迎だ。勞働者が幸福になつてこそ市が繁榮し、市民が幸福になることだ。

正義を支持しともに闘う

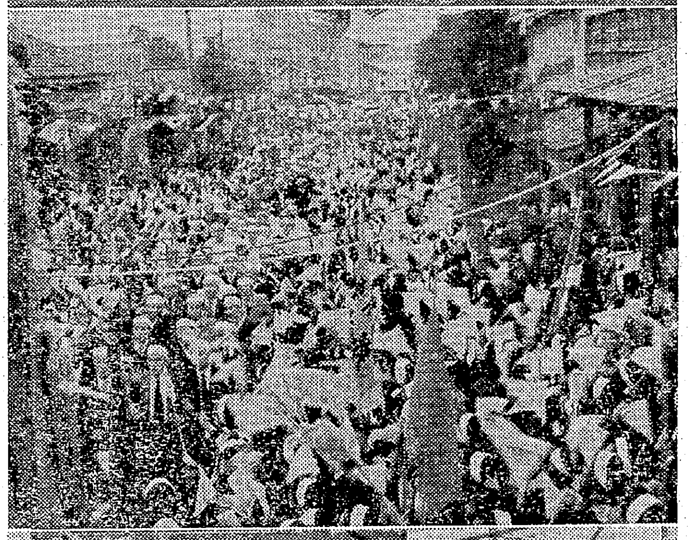
市政明朗化のため、三鉱労組は立上つた一部反動ボスの策動により、人事問題を輕々しく取扱うのは反對だ、市長は確心をもつて市政を担當せよ、そして最大多数の最大幸福を圖れ、三鑛労組はメクラヂヤナイ、正しい者を支持しともに闘う。

歌え高らかに行動隊の歌

企闘終結躍進大会と、堂々たるアーチが支部組合事務局の前にたてられた、青行隊の猛者連は今日は花形だ歌え民族獨立行動隊の歌を

頑張つたぞカカ衆

ワッショイ、ワッショイ、そら炭婦協が來たぞ、会社がたたきつぶそうとしても、オラ達のカカ衆はくたびれんぞソレ頑張れワッショイワッショイ。



百二十三日振りで職場へ

執行部が先導で、拒否者は小旗の波に迎えられて、百二十三日振りに職場へ歸つて來た。ヤルゾ職場明朗化のため、不正は徹底的に叩く。

一にも團結二にも團結

分裂を圖つたものや、會社の手先になつた者には、今日の喜びはわからネエだろう。團結が必要だ。かえれ組合のふところへ。

勝つて兜の緒を締めよ

民族の自由を守れ、蹶起せよ祖國の労働者・・・大地下足袋のプラカードに勝つて兜の緒を締めよと大書して、宮浦支部のデモ隊は宮山グラウンドを出發した。デモ隊列の人々は久方振の晴々とした顔だ、これが平和を守る顔である。

大兜は街をネリ歩く

デモ隊の波は、市中をネリ歩く、市井の人々は模型の大カブトに奇異の眼を見張る。アレが首切闘争に勝つた、三鉱労組だ、スゲエナア三鑛労組のデモはと見守つている。

法律守らぬ政府をブッツブセ

ワッショイ、ピッピッ、デモ隊は今ぞ恩返しと國鉄労組を激励する。法律をつくつた政府が法律を守らぬとは何事だ、労働者が安心して働ける政府を作れ、ソレワッショイ〳〵。

短歌

水甕支社歌會

下田　菊史
闘争も終りに近しかけことの嬉いな音がパチンコ覚えし頃

渡辺　幸利
物買ふに断られたる紙幣をぱつくろいて居りまた使ふべく

超汐　春松
牛馬の如く曳かねばならぬ坑木に結はえる綱を吾はなひおり

宮原　陽光
徹夜業の疲れとろけて眠りゆく昼の人声間遠に聞きて

堀川　三郎
職業と我が眼にうつる保安隊員は保安隊員の自負もつならむ

岩本宗二郎
遅れじと相次ぐデモの隊列に老いしひとりがつく松葉杖

前田　義則
落盤るから口笛吹くなという男がまだおり案外若き先山

宮武　昭典
デモ隊の赤き旗に見えかくる胸病む友の顔青白く

松田　信之
明日よりのストを告げしが聴えずか内職のミシンを歇し踏む妻

堀川　經男
金にしてはとるに足らざるすき毛をば貯めては妻が縫針と換ゆ

△国鐵労組の替え歌

「仲裁々定の完全実施国鉄労組」のビラがベタ〳〵貼つてあるなかに、職場の創意工夫でつくられた替え歌が出ている。「仲裁々定の完全実施」のいかめしい文字より職場のなやみ、苦しみが生のまゝ出ている。

◉ズンドコ節

われら低給月給とり
これじやいつまで一人でくらす
廿五、廿、廿五まで
いつまでピイピイ金缺病
トコズンドコズンドコ

◉炭鑛節

不正がデタデタ不正がデタ
ヨイ　ヨイ
鉄道会館の上にデタ
あんまり世間がさわぐので
さぞやえら方けむたかろ
サノヨイヨイ

◉トンコ節

あなたにもらつたお金では
とつてもくつてはいけませぬ
くれるきもちがあるならば
貼紙なんぞはいたしやせぬ
ネエ　トンコトンコ

闘いのアカ落しに
原炭婦協　立願寺へ

心配された天候も大した事もなく時々薄日も射す程度で絶好の行楽日和だ。あの苦しい闘いを地理的条件に制約を受け乍ら、組合よりもらつた育成資金も全部電車賃に使い果し、独自弁で座込デモ等に参加された炭婦協の熱意は当然のことゝは云え並大抵ではなかつたろう。闘いの最中既存婦人会の細小屋行

又勝立室店長公開質問で社宅より四名の検束者を出し、地域分会、炭婦協相協力して留守宅慰問、面会差入等行つている時又々熊本行としやれこんだ既存婦人会苦しい闘いを続けている自分達の身に比べやはり女として淋しい事であつたと本所勤務の丑氏の奥さんはしみじみと記者に語つた。

然し遂に闘いは勝つたのだ。団結の力は遂に実を結んだ。マイクを通じ挨拶をする高田分会長も今日は晴れ晴れとしている。石橋分会長の挨拶があり続いて前分会長森尾氏のメツセージが朗読された。そして一同は闘争のアカ落しに一路立願寺え―

子供のど自慢大会のメロデーがバスの中より流れるのを立止つて見送つている人もある。

母親のひざに抱れる子供達も今日は如何にも嬉しそうだ。

前分会長立案のクイズ答案に頭をひねる人、のんびりとした様子はやつと肩の荷を下した人の安心した姿だ。

バスは荒尾より、海岸へ出て立願寺へ急ぐ、立願寺の保養所について一服の後今までの苦労も忘れのんびりと遊技をなして各班毎に記念撮影を行い、汽車乗車希望者が先発、バスは午後三時三十分立願寺を出発、途中はのど自慢、かくし芸で大にぎわいで三鉱労組本部前へ到着する。

原炭婦協来るを待つていた本部河野書記長より感謝の意が表され今後の協力に対し力強く発言がされた。

たそがれ迫る大牟田の町を一日の行楽を終えてバスは一路北へ

（原社宅M発）

闘いのアカを流して＝ニコニコ

遅れを取戻そう
港務所炭婦協　白井社宅分会　元氣で誕生

港務所白井社宅では十二月一日を期して炭婦協の正式な発足をみた。なにせお産の予定日がのび〳〵になつていて、もうとつくに大きくなつている他支部にも気を揉ませたのであるが、これで新たな生長の段階に入つたわけである。

屋間のデモにひき続いて夜は社宅のクラブで「どうして既成婦人会が会社側なのか」今迄の事実が示しているにも拘らず、まだ納得しいかぬ、或は納得しようともしない人たちに遅くまで説明が行われた。本所白井支部炭婦協の方々のよそごとでないという真剣な傍聴と協力に、警察の刑事が暗がりにうろつき始めたり、まだ弾圧しようとする気でいるから全く油断出来ない。

既成婦人会長がすつかりすねて応援を頼むとかいつていたが、まさかそれじやあるまい等の声が起つたり、社宅クラブでは満員の状態になつた。とにかく役員も次の通り決定したので、今後炭婦協加入もずつとふえると見られている。

会長　梅崎ツマ
副会長　小川文子
幹事　黒田津多子
〃　合田しづの
〃　森田ナミ
会計　松尾富美子

―K発―

複雑な顔・顔・顔
三川鑛の表情　高札の取れた日

立入禁止のこにくらしい高札もとり払われて、自由に、復帰者として抗口も懐かしく覗いてきた三川の拒否者と、坑長、副長、人事係長、その他の係長という面々が十二月二日会見した。

激しい闘争を経て初めて坑長室の奥に立並ぶ坑長以下を一歩踏み込んで目睹した一同は、さすがに感動的な、勝つたというも複雑な感じで部屋一杯に詰めよせた。拒否者代表として頑張つた蒲池氏がすかさず口をきつた。八月三十一日の怒りはそう簡単に水に流せるものではない、それを解決するのは君らの今後の態度如何にかゝつている―。そうだ同じ思いでわれわれは来たのだ。みんな黙りこくつて睨らんでいるのに、副長がにやにやしている。気に触つてならない。誠意があるのかというように一発、にやにやするなと叫びがとんだ。

椅子の用意もない坑長室は手狭までもあり、会場は保安講堂に移され坑長挨拶がある。全然拍手がない。続いて酒井支部長、職組支部長からも挨拶がある。それによると職組支部には一人の拒否者もなかつたので淋しい限りであるという話。引比べて労組はどの椅子にも一杯控えている具合に、七日の職場復帰が楽しみである。

また改めて古賀組織部長、蒲池氏の両人から労働者の意見を尊重しなければ何事も出来ず、本当の和解はあり得ないという意味の言が挨拶の中にも会社側へ強調された坑長は異論なく答えるとともに、要求のあつた自己紹介に移るといつた風景にようやく拍手も少しく [illegible]

映画

問題の映畫
赤線基地
総てに抒情味生かす

反米的との一部の横ヤリで一時公開を延期した問題の映画であり、その後再編集を行つてこのほどようやく陽の目を見るに至つたもので巻頭に「これは誰に抗議するというものでなく、われわれの反省としたい」という意味の断り書がつけられ、誤解一掃につとめているが、改訂版とはいえ、原形をそのまま使用して、一部音楽の変更や部分的の改訂にとどめ、脚本監督の谷口千吉の意図を生かした再編集版だけに鑑賞になんら支障をきたさず、巻頭の断り書ですべてが解決した形である。

谷口の演出前記によると〃こうした内容はともすれば反米的な印象をあたえやすいが、この点は極力避けてじよ情的な雰囲気の中に現代に生きる若い人の生態を温い眼で描いてみたい〃といつているが事実、この映画を見て考えられることは十年ぶりに満洲から引揚げて、富士山ろくの故郷へ帰つた男が、基地化によつて変貌した故郷の山河人情に失望して故郷を離れていく所謂イデオロギツシユな映画ではもうとうない、むしろ大の男が基地化の故郷に止まつて家を [illegible]

女のかなしさを描いて絶妙
樋口一葉原作の映画化

文学座が映画製作に初めて乗出した第一回の自主作品「にごりえ」は樋口一葉の「十三夜」「大つごもり」「にごりえ」の三編を当節流行のオムニバス形式に水木洋子 [illegible]